

不識庵プレミアム会



不識庵プレミアム会のご案内

株式会社不識庵主催、大手企業役員の皆様を対象にした、役員研修プログラム、『不識庵プレミアム会』は第三期を開催中ですが、好評につき、第四期（令和八年四月～令和九年二月）を引き続き開講いたします。ご参加をご検討いただければ幸いです。

二十一世紀は、地球的規模での歴史的転換が起こりつつあり、経営者は会社がそのような時代の転換に際して、どう対処すべきか、十分な知見を持つことが求められています。

『不識庵プレミアム会』は、人類文明が抱える根源的な問題、ひいては、それが会社経営に与える影響などについて、各社の役員が集い、考え、議論する場です。

各業界を代表する最大十社程度の大手企業から役員の方を一人ずつ派遣していただき、企業の壁を越えて、世界が抱える諸問題について徹底的に考え抜き、議論していただくという、少数精鋭かつ全員討議型のユニークな研修の場となります。

役員になってからリベラルアーツを学ぶのは遅すぎるという声もありますが、私どもは、その逆に、大手企業の経営を担うという責任ある立場の方だからこそ、人類が直面している重大問題に、本気で関与していただけるのではないかと考えております。

そのための一助になりたいというのが、『不識庵プレミアム会』発足のきっかけです。『不識庵プレミアム会』での研鑽を通じて、課題解決のために少しでもお役に立てるならば、これに勝る喜びはありません。

不識庵代表

中谷 巖

実施概要

一、『不識庵プレミアム会』第四期は、令和八年四月に開講、以後、令和九年二月まで、八月を除く毎月一回、計十回の開催とする。

二、大手企業からの推薦を受けた役員を「会員」とし、定員を当面、十名程度とする。各業界から一社の参加を原則とする。

三、「会員」には毎回、研修課題が課される。「会員」は十分な事前準備をしたうえで、研修開催日にはその成果を発表し、相互に討議を行う。ただし発表は事前に組成されるグループ単位で行う。

四、毎回、課題テーマに沿った専門家を「ゲスト講師」として招聘する。「ゲスト講師」は、テーマや課題図書を選定などについて助言するとともに、メンバーとの討議に参加する。

五、『プレミアム会』開催日の暫定的な時間割は以下の通りとするが、当日の事情により変更されることがある。

◆「第1部」(13時～15時)

与えられた課題についての所見をグループごとに発表することから講座はスタート。その後、ゲスト講師を交えた質疑応答を行う。このための事前準備として、各メンバーは講座前日までに各自の成果を持ち寄り、グループとしての発表の準備を行っておく。

◆「第2部」(15時～18時)

ゲスト講師による当該課題に関する講義及び質疑応答。

◆「第3部」(18時～19時)

ゲスト講師を交えた全体での討議。なお、必要に応じ、講座の後、隣接するサロンにて懇親のための場を設ける。

六、年会費は年間、五百万円(税別)とする。ただし、「会員」派遣元企業の関係者などに講座の様子を体験していただくための機会を適宜設ける。

◆お問合せ先

名称 | 株式会社 不識庵

住所 | 東京都千代田区内神田1丁目14番4号

電話 | (03)-3292-0320

e-mail | tsuji@fushikian.jp(担当 辻靖浩)

ホームページ

www.fushikian.jp



令和七年度のカリキュラム案（一部のみ掲載）

プラトン『国家』 を読み解く

〈課題〉

およそ2500年も昔、日本ではまだ文字も存在していなかった時代にギリシャ哲学が隆盛を極めていた。すでにその当時からギリシャの哲学者が考え、議論していたことはどんなことだったのか。そして、それは現代世界でも通用する普遍性を持っていたのか。

この講座では、今日、アメリカの大学で教科書としてもっとも多く使われているといわれるプラトンの『国家』を取り上げる。プラトン『国家』は、現代に通じる興味深い話で満ちており、様々な問題を我々に投げかけてくれる。講座では、プラトン研究の世界的権威である納富教授とともに「国家のあるべき姿」「正義とは何か」「人間の世界認識」など、現代に通じる諸問題を取り上げ、議論を深めていく。

〈ゲスト講師〉

納富信留氏（東京大学大学院教授、同大学第56代文学部長、元国際プラトン学会会長）

〈課題図書〉

プラトン『国家』

「生成AI」は 人類文明を どう変えるか

〈課題〉

ChatGPTなど、「生成AI」の発展ぶりには目を見張るものがある。人間の知的作業の多くをAIが瞬時にこなしていく様は現代人を驚かせ、人間の知的仕事を奪うのではないかと危惧する声も聞かれる。果たして、「生成AI」は人間にとって福音なのか、それとも脅威なのか。「生成AI」によって、人類文明はどのような本質的転換を遂げるのか。

本講座では、その哲学的意味を探り、人間と技術の関係のあるべき姿を模索する。ひいてはそれが「人間とはなにか」を考えなおすことにつながる。講師としてお願いする西山圭太氏は、「生成AI」や「深層学習」が世界を認識する方法は、実は、人間自身の世界認識の仕方と「同型」であるとしたうえで、新たな「知の方法論」を提案している。

〈ゲスト講師〉

西山圭太氏（東京大学未来ビジョン研究センター 客員教授）

〈課題図書〉

西山圭太他著『相対化する知性』

能動的推論と 制度の経済学

〈課題〉

生命体が、エントロピー増大の法則（物事は放置しておくとは必ず無秩序になり、乱雑な状態に陥っていくという熱力学第2法則の考え方）に抗して、常に秩序を維持しているのはなぜか。その理由として、最近、注目されているのが「能動的推論」である。

これは「外部」の変化に対応して「内部」が自らの生存確率を最大化するように戦略的に行動するという考え方に立脚したきわめて強力な理論であるが、この考え方は生命体だけでなく、社会全体にも適用できるとされる。例えば、気候変動など、「外部」に環境変化が起これば、「内部」にいる人間が、自らの生存確率を上げるために「制度改革」を行うという考え方である。この新たな理論を題材に、人類文明転換の可能性について考察する。

〈ゲスト講師〉

瀧澤弘和氏（中央大学経済学部教授）

〈課題図書〉

乾敏郎・阪口豊著『脳の大統一理論』

現代日本人論 ～「精神的ねじれ」 は是正できるか？～

〈課題〉

戦後日本の「精神的ねじれ」は、敗戦を契機に生まれた「戦前」と「戦後」の断絶からくるねじれである。例えば、「靖国神社への参拝は是か非か」という対立は根深い。また、現行憲法はアメリカから強制されたものであり、改正すべきだという「改憲派」と、世界に誇る平和憲法として守るべきとする「護憲派」の対立も国論を二分している。

これらの思想的対立は「戦前」と「戦後」が分断されており、歴史的な一貫性が保持されていないことに原因がある。本講座では、このような現代日本人の根深い「精神的ねじれ」を解きほぐすにはどのような考え方が必要なのかについて考える。決して簡単に結論が出る問題ではないが、現代日本が直面している最も根源的な問題でもある。

〈ゲスト講師〉

大澤真幸氏（社会学者）

〈課題図書〉

加藤典洋『敗戦後論』